

令和 8 年度 学校運営方針

1. 学校経営方針

私たちは今、先行きが不透明で、将来を見通すことが難しい時代を生きています。このような社会において、子どもたちが心豊かに人生を切り拓いていくためには、自らのよさや可能性を認識するとともに、多様な人々を尊重し、協働しながら、主体的に考え、互いに納得できる答えを導き出す力を育むことが極めて重要です。

本校では、予測困難な未来をたくましく生き抜くために必要な資質・能力を育み、自ら考え、判断し、行動して社会に貢献できる生徒、そして知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性を備え、夢と志をもって自らの可能性に挑戦し続ける生徒の育成をめざしてまいります。

本年度は、これまで積み重ねてきた教育実践を基盤としながら、ICT の効果的な活用を通して、生徒主体の学びを一層充実・発展させてまいります。あわせて、多様性を尊重し、誰一人取り残さない教育環境の整備に努め、生徒一人ひとりが自ら学びを深め、自己実現へと歩みを進められる学校づくりを推進してまいります。

また、教育活動を支える基盤は、教職員の心身の健康と充実にあります。学び続ける教職員として研鑽に励み、ウェルビーイングの向上を図るとともに、相互に支え合い、心理的安全性の高い組織づくりを進めてまいります。

さらに、第一中学校の立地を生かし、関西外国語大学をはじめ、地域や企業との連携を積極的に進め、体験的な学びの充実を図ってまいります。そうした学びを通して、生徒に充実感や達成感をもたらし、自信を育み、さまざまなことに挑戦しようとする意欲を高めていきたいと考えています。

加えて、本校区における小・中学校の連携を一層深め、9年間の学びの連続性を重視した教育を推進することで、子どもたちの発達段階に応じた確かな成長を実現してまいります。

生徒が安心して過ごせる心地よい教育環境を整え、一人ひとりに丁寧に寄り添いながら、本校の教育目標と、めざす子ども像の実現に向け、全教職員一丸となって取り組んでまいります。

2. 学校教育目標

日に新た 自ら学び 心豊かに たくましく

＊第一中学校区ブロック（第一中、殿山第一小、小倉小、禁野小）のめざす子ども像

「考える子、思いやりのある子、たくましい子」

本校区では、このめざす子ども像を小・中学校が共有し、義務教育 9 年間を見通した系統的な教育を行うことで、子どもたちの豊かな育ちを育ててまいります。

(1) めざす学校像

安心して過ごせる、一人ひとりを大切に、夢や希望を育む学校

(2) めざす子ども像

- ・自ら律し、成長する子（向上心を持ち、自らの可能性を広げる）
- ・自ら考え、行動する子（主体的に学び、自ら行動する）
- ・心豊かに、認め合う子（多様性を尊重し、自分も他者も大切にする）
- ・健康で、たくましい子（しなやかな心と、健やかな体をつくる）

(3) めざす教職員像 ～育自と挑戦～

- ・豊かな人間性と高い倫理観、人権意識を持ち、組織的に子どもを支える教職員
- ・意欲的に研究・研修に励み、指導力・支援力を磨き続ける教職員
- ・互いを認め合い、高め合う同僚性の高い教職員
- ・Society 5.0 時代に、新たな価値を創造できる教職員

3. 本年度の重点目標

(1) 「確かな学力」と自立した学び手の育成

- ・自立した学習者の育成
「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、生徒がタブレットなどを効果的に活用し、自ら学習をデザインする力を養います。また、教職員も ICT 機器を効果的に活用し、授業改善を推進します。
- ・課題解決型学習 (PBL) の推進
日常生活や地域社会の課題に向き合い、自ら問いを立てて解決していく探究的な学びを強化します。
- ・情報活用能力の向上
デジタル・シティズンシップを身に付けた、よりよい社会の担い手となる生徒を育成します。
- ・学びの連続性による学力向上
子どもたちの学びが 9 年間を通して確実に積み重なるよう系統的な学力向上をめざします。

(2) 豊かな心と健やかな体の育成 (学びのセーフティネット)

- ・人権尊重と自己有用感・自己肯定感の向上
多様な価値観を認め合い、生徒一人ひとりが安心して自分らしく過ごせる居場所づくりを進め、自己有用感・自己肯定感を高めます。また、自己評価や外部評価を活用し、その向上をめざします。
- ・「ともに学び、ともに育つ」教育の推進
支援教育の専門性を高め、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導・支援を充実させます。LITALICO 教育ソフトなどを活用し、合理的配慮と基礎的環境整備を推進します。
- ・いじめ・不登校への組織的対応
「いじめは絶対に許されない」という認識のもと、早期発見・早期対応の体制を構築します。不登校の生徒に対しては、ICT の活用や校内の居場所設置など、個に応じた支援を徹底します。また、「親の会」の実施やオンラインを活用した支援などにより、登校困難な生徒をサポートする環境を整えます。
- ・小中の円滑な接続支援
小学校と連携し、「中一ギャップ」の解消に向けた取り組みを強化します

(3) 教職員の資質向上と働き方改革

- ・「チーム学校」と服務規律の徹底
校長のリーダーシップのもと、教職員が互いに学び合い、組織として課題解決に取り組む風土を醸成します。高い倫理観を保持し、服務規律を徹底します。
- ・教職員の専門性の向上と連携強化
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や、生徒指導・支援教育等の専門性向上に向けた研修に努めます。また、小中学校の教職員が協議や研修を行う機会を増やし、相互理解と指導力向上を図ります。

- ・ウェルビーイングの向上と心理的安全性の確保

教職員が心身ともに健康で、安心して意見を出し合える「心理的安全性の高い組織」をめざします。互いに支え合い、認め合う関係性を築き、教職員一人ひとりのウェルビーイングの向上を図ります。

- ・業務改善と意識改革の推進

生徒と向き合う時間を最大限確保するため、校務のDX化や組織の見直しをすすめるとともに、業務改善と労働安全衛生体制の充実、ワークエンゲージメントの向上を図ります。

(4) 社会に開かれた学校づくりと地域連携

- ・地域・社会との連携

学校運営協議会や保護者、地域住民と教育目標を共有し、「社会に開かれた教育課程」を実現します。地域の人的・物的資源を積極的に活用し、体験的な学びを充実させます。また、国内や海外の学校などとのオンライン交流を推進し、多様な価値観や文化に触れる機会を設けます。

- ・情報の積極的な発信

学校ブログ等を通じて教育活動や成果を可視化し、地域・保護者との信頼関係を深めます。